



山いき隊員だより (栗島隊員)



～ 最近の主な活動とできごと (6月11日-6月26日) ～

＜こいねみさくぼ粟苗移植作業＞

NPO法人こいねみさくぼの作業に参加しました。今回はポットに芽を出した粟の苗を畑に移植する作業を行いました。畑で地域の方と話をしながら汗をかく貴重な時間でした。普段はそれぞれ仕事をしながらも、NPOとして休日に農作業を行うのは苦勞が絶えないと思いますが、地道に活動を続けられている姿に頭が下がります。今年の粟の成長にも期待がかかります。



＜熊伏山登山道整備＞

登山道の木道が落ちてしまっていたため、NPO山に生きる会のメンバーの方々とともに架け替え作業を行いました。昔から山で仕事をしてきた皆さんの技術を近くで見させていただいてとても勉強になりました。木材の種類によって使用方法・使用箇所を変えたり、地形やもともとある木の根を利用してより丈夫な構造にしたりと、何気ない作業に長年の経験が垣間見えました。

元の木道に使われていたカヤ材の内部が全く朽ちておらず、匂いも強く残っていたのが非常に印象的でした。カヤ材やクリ材は水に強く耐久性が高いというのは林業や木材の勉強をしていると良く聞く話です。水窪の山の中にかかっている年代物の橋や木道もカヤ材やクリ材を使っていることが多く、実際に歩いてみてその耐久性を実感することも多いです。

ここで生活をしていると、学生時代に座学で学んだことを実感として復習できる場面に何度も遭遇するのですが、こういった感覚を味わえるのがとても嬉しいです。



＜山住古道ヒル取り＞

水窪の山を小学生が歩くということで、事前に山に生きる会のメンバー3名と登山道のヒル取り作業を行いました。方法はいたって簡単で、割りばしと塩の入ったビンを持って山に入り、自分に向かってきたヒルを割りばしでつかんでビンに入れるというものです。自分は2時間くらいで67匹をとりましたが、最終的には一日で600匹とれたそうです。過去には一日で1000匹以上とったこともあるらしく、水窪でのヒルの繁栄具合が伺えます。

とはいえ、ヒル取り後はヒルの数がしっかり減っている実感があるそうで、地道な活動に頭が下がります。良い運動になって会話も弾んで山の現状も知ることができる非常に面白い取組だと感じました。

＜麦秋の候＞

「麦秋の候」は日本の72候の一つで、5月31日～6月4日頃に当たるそうです。文字だけ見ると秋のイメージを持ちますが、麦はちょうど6月初旬頃に収穫を迎えるので、初夏に当たります。

「麦秋の候」に当たる期間からは少しはずれましたが、6月に入って何度かつづいしもとさんの大麦の収穫・脱穀作業を経験させていただきました。

大麦の穂は非常に落ちやすいため、刈り取り・はざかけ作業のあとに地面に落ちた穂を拾う必要があります。「落穂拾い」というフランスの有名な絵がありますが、大麦の収穫作業を体験して初めてこの絵が何を描いているのかが実感できました。



＜水窪射撃技術訓練センター＞

水窪射撃技術訓練センター（射撃場）にて水窪と周辺地域の射撃クラブを対象とする射撃大会の見学と写真撮影をさせていただきました。実弾射撃とクレー射撃がそれぞれ行われましたが、どちらも緊張感と迫力が伝わってきました。

射撃場と狩猟（銃猟）者は密接に関連していると思いますし、増え続ける鳥獣被害の対策を考える上でも射撃場は地域にとってなくてはならない施設だと思います。射撃場を管理されているNPOや猟友会の方々に射撃場や狩猟に関する質問をさせていただくこともありますが、自分の初歩的な質問にも親身に対応していただき、とてもありがたいです。



＜サンショウの実＞

実家の山でサンショウの実を採りました。サンショウは普段山を歩いていると良く見かけますが、いざ探してみるとあまり見つからないものです。祖父の記憶を頼りに探してみると、しっかりその場所に太いサンショウの木が生えていました。その木は実がならない雄木だったのですが、記憶の鮮明さに驚きました。

結局その後も山の中を探して20本程度木を見つけたのですが、実がなっていたのは3本だけでした。サンショウは、実や葉は料理に、幹はスリコギ棒に使われる有用な樹木です。サンショウに限らず、日常生活で使える樹木や植物の生育箇所を把握していると何かと便利ですし山歩きも楽しくなるな、と感じました。



あるとうれしい身近な樹木 ～ 探してみませんか？ ～

水窪は森林が96%を占めていますが、森林組合以外による林業はあまり行われておらず、山林を保有している方でも自分の山に入ることは少ないかと思えます。ただ、山には人工林以外にも日常生活に使えるたり販売してお小遣いを稼げたりする可能性がある樹木も多く生育しているので、そういった樹木がどの程度存在しているのかがわかれば、山林所有者のためにもなりますしご家族やお子様が入る楽しみも増えるのではないかな、と考えました。

そこで、今回は水窪の山で見つけるとちょっとうれしい有用樹木たちをいくつか紹介します。ご要望があれば、所有している山に入らせていただいて、どんな樹木がどこにどのくらい生育しているのか、といった調査も承りますのでお気軽にご連絡ください。また詳しい内容も次回の記事で紹介させていただきます。

サカキ



良く神棚に供えられる樹木です。販売されているものも見かけます。

シキミ



「香の葉」として良くお墓に供えられます。販売されているものも見かけます。

シラカシ



とても硬い木で、ナタやクワなど農林業器具の柄によく使われます。

ミズナラ・コナラ



シイタケのぼた木になります。クワガタやカブトムシが集まります。

カヤ（バリバリ）



節分の日に家の軒先にイワシの頭と一緒に飾ります。

キハダ



ものすごく苦い黄色い皮が胃薬になります。百草丸の原料です。

ハリギリ



若芽を天ぷらやおひたしにします・木材としても優秀です。

トチ



水窪に馴染み深い樹木。栃餅・栃粥などとして昔から食されてきました。

サンショウ



実と葉は料理に使われます。幹はスリコギ棒に良く使われます。

クロモジ



高級つまようじの材料です。さわやかな香りがあります。

